
夜景の沈黙

花咲 甲二郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜景の沈黙

【Nコード】

N8832B

【作者名】

花咲 甲二郎

【あらすじ】

奥手青年、語彙不足に悩む日々。ショートショート。

女性と話をするのが好きだ。笑顔を見るのは何よりも幸福感に満ち溢れる。しかし会話が続かない。くだらない言葉が口から漏れる。そして自己嫌悪。

「和馬君、その話さつきもしたよ」

助手席の絵理亜えりあが外を向いたまま呟いた。付き合って三ヶ月だが距離感が変わらない。「そうだね。ごめん」なぜ謝らなければならぬのだろうか。すでに今日三回謝っている。今日も同じパターンなのかな。

帰ろうと言うのはいつも絵理亜の方からだ。そのとき残念な気持ちよりも安堵感の方が胸を包む。好きな人とデートをしているときに相手を楽しませたいという気持ちになるのは自然なことだと思う。しかしそれとは裏腹に僕の言葉は不自然になる。それが苦痛になっていた。絵理亜が映画の話 시작했다。

「先週観たのは女性検事が利権に巣くう悪と戦うストーリーでね、主人公の苦悩の描き方が絶妙で・・・」

絵理亜は説明がうまい。全く耳にしたことのないタイトルであったが最後には観終わった後のように全身の心地いい汗を感じた。人を介して映画に感動するのは初めてのことだった。「すげーな」そういうと絵理亜は肩をすくめた。多分映画の感想だと思ったのだろう。本当は絵理亜の喋りに脱帽という意味なのだが。

語彙と恋。妙な駄洒落が頭に浮かんだ。どんなに好きな人がいてもその人と満足に会話ができないのは不幸だ。エアポケットに入り込んだ錯覚に陥る。さつきまでかいていた汗が蒸発していくのがわかる。また沈黙が車内を包む。丘の上の駐車場には僕のセダンだけが停まっている。夜景がぼんやりと浮かんでいる。

胸が痛い。沈黙は苦痛だな。

「マニュアル車運転できないんだ、私」

シフトノブをガチャガチャ動かす。一速から順に五速まで入れたとき無意識に絵理亜の右手を掴んだ。「Rに入れるのはだめだよ」そう言っただけで助手席側を見た。見目麗しい顔があつた。「後には戻りたくないからね」キッスをした後夜景に目を戻す。絵理亜の手は冷たかつた。

「和馬君の手って暖かいんだねー。私、冷え性だから気持ちいい」僕は何も言わず口の端で笑つた。それから十五分以上も沈黙が続いた。手を握つたまま。

胸が痛い。沈黙は快感だな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8832b/>

夜景の沈黙

2010年10月24日14時32分発行